

闇桜

樋口一葉

青空文庫

(上)

隔^{へだ}ては中^{なか}垣^{がき}の建^{けん}仁^{にん}寺^じにゆづりて汲^くみはす庭^{には}井^{ゐる}の水^{みづ}の交^{まじ}りの底^{そこ}きよく深^{ふか}く軒^{のき}端^ばに咲^さ
 く梅^{うめ}一^{ひと}木^きに両^{りやう}家^けの春^{はる}を見^みせて薫^{かほ}りも分^{わか}ち合^あふ中^{なか}村^{むら}園^{その}田^だと呼^よぶ宿^{やど}あり園^{その}田^だの主^{ある}人^じは一^を
 昨^と年^{とし}なくなりて相^{さう}続^{ぞく}は良^{りやう}之^の助^{すけ}廿^に二^にの若^{わか}者^{もの}何^{なに}がし^がくかう校^{がう}の通^{つう}学^{がく}生^{せい}とかや中^{なか}村^{むら}の
 たには娘^{むすめ}只^{ただ}一人^{ひとり}男子^{をとこ}もありたれど早^{さう}世^{せい}しての一^{いつ}粒^{つぶ}ものとして寵^{ちやう}愛^{あい}はいとゞ手^てのう
 の玉^{たま}かざしの花^{はな}に吹^ふかぬ風^{かぜ}まづいとひて願^{ねが}ふはあし田^た鶴^つの齡^よなが^{はひ}れとにや千^ち代^よとなづけ
 し親^{おや}心^{こころ}にぞ見^みゆらんものよ梅^{せんだん}檀^{ふたば}の二^{ふた}葉^ば三^{さん}ツ四^よツより行^{ゆく}末^{すえ}さぞと世^よの人^{ひと}のほめもの
 にせし姿^{すがた}の花^{はな}は雨^{あめ}さそふ弥^や生^ひの山^{やま}ほころび初^そめしつぼみに眺^{なが}めそはりて盛^{さか}りはいつとまつ
 の葉^はごしの月^{つき}いぎよふといふも可^か愛^{あい}らしき十^{じゅう}六^{ろく}歳^{さい}の高^{たか}島^{しま}田^だにかくるやさしきなまこ絞^{しぼ}り
 くれなるは園^{その}生^ふに植^うてもかくれなきもの中^{なか}村^{むら}のお嬢^{ぢやう}さんとあらぬ人^{ひと}にまでうはさゝるゝ
 美^び人^{じん}もうるさきものぞかしさても習^しく慣^{わん}こそは可^を笑^かしけれ北^{きた}風^{かぜ}の空^{そら}にいかのぼりうな
 らせて電^{でん}信^{しん}の柱^{はしら}邪^じ魔^まくさかりし昔^{むか}しは我^{われ}も昔^{むか}と思^{おも}へど良^{りやう}之^の助^{すけ}お千^ち代^よに向^むかふときはあり
 し舞^ひ遊^なびの心^{こころ}あらたまらず改^{あらた}まりし姿^{すがた}かたち氣^きにとめんとせねばとまりもせで良^{りやう}さん千^ち

代ちやんと他愛もなき談笑に果ては引き出す喧嘩の糸口最早来玉ふな何しに來んお
 前様こそそのいひじらけに見合さぬ顔も僅か二日目昨日は私が悪るかりし此後はあの様な
 我儘いひませぬ程におゆるし遊ばしてよとあどなくも詫びられて流石にをかしく解けで
 はあられぬ春の氷イヤ僕こそが結局局なり妹といふもの味しらねどあらば斯くまで愛ら
 しきか笑顔ゆたかに袖ひかへて良さん昨夕は嬉しき夢を見たりお前様が学校を卒業
 なされて何といふお役か知らず高帽子立派に黒ぬりの馬車にのりて西洋館へ入り給
 ところ
 ふ所をといふ夢は逆夢ぞ馬車にでも曳かれはせぬかと大笑すれば美しき眉ひそめて
 氣になる事おつしやるよ今日の日曜は最早何処へもお出で遊ばすなど今の世の教育う
 けた身に似合しからぬ詞も真実大事に思へばなり此方に隔てなければ彼方に遠慮もな
 くくれ竹のよのうきと云ふ事二人が中には葉末におく露ほども知らず笑ふて暮らす春の日
 もまだ風寒き二月半ば梅見て來んと夕暮や摩利支天の縁日に連ぬる袖も温かげに良
 さんお約束のもの忘れては否よ。ア、大丈夫忘すれやアしなひ併しコーツと何んだツ
 けねへ。あれだものを出かけにもあの位願つておいたのに。さうくおぼえて居る八百屋
 お七の機関が見たいと云つたんだツけ。アラ否嘘ばかり。それぢやア丹波の国から生
 捕つた荒熊でございの方か。何うでもようございますよ妾は最早帰りますから。あやま

つたく今のはみんな嘘何うして中村の令嬢千代子君とも云れる人がそんな御注
 文をなさう筈がない良之助たしかに承はつて参つたものは。ようございます何も入
 りません。さう怒つてはこまる喧嘩しながら歩行と往來の人が笑ふぢやアないか。だ
 つてあなたが彼様なこと許かしおつしやるんだもの。夫だからあやまつたと云ふぢやない
 かサア多舌て居るうちに小間物屋のまへは通りこして仕舞つた。あらマア何しませうね
 へ未だ先にもありますか知ら。何だかぞんじませんでしたつた今何も入らないと云つた人は何
 処に。最早それはいひつこなしとゝめるも云ふも一筋道横町の方に植木は多しこち
 へと招けば走りよるぬり下駄の音カラコロリ琴ひく盲女は今の世の朝顔か露のひぬまの
 あはれく粟の水餡めしませとゆるく甘くいふ隣にあつ焼の塩せんべいかたきをむねと
 したるもをかし。千代ちやん鳥渡見玉へ右から二番目のを。ハア彼の紅梅がいゝ事ねへ
 と余念なく眺め入りし後より。中村さんと唐突に背中たゝかれてオヤと振り返へれば
 そくはつ束髪の一群何と見てかおむつましいことゝ無遠慮の一言たれが花の唇をもれし詞か跡
 は同音の笑ひ声夜風に残して走り行くを千代ちやん彼は何だ学校の御朋友か随分
 乱暴な連中だなアとあきれて見送る良之助より低頭くお千代は赧然めり

(中)

昨日きのふは何方いづかたに宿りやどつる心こころとてかはかなく動き初うごめては中々なか／＼にえも止とまらずあやしや
 迷まよふぬば玉たまの闇色やみいろなき声こゑさへ身みにしみて思おもひ出いづるに身みもふるはれぬ其人そのひと恋こひしくなると
 共に恥はづかしくつゝましく恐おそろしくかく云いはゞ笑わらはれんかく振舞ふるまはゞ厭いとはれんと仮かり初の返かへ
 答こたさへはか／＼しくは云いひも得えせずひねる畳たゞみの塵ちりよりぞ山やまともつもる思おもひの数かず々々逢あひ
 たし見みたしなど陽あつはに云いひし昨日きのふの心こころは浅あさかりける我わが心こゝろ我われと咎とがむれば隣となりとも云いはず良り
 やうさま 様さま とも云いはず云いはねばこそくるしけれ涙なみだしなくばと云いひけんから衣胸ころもねのあたりもの燃もゆ
 べく覺おぼえて夜よるはすがらに眠ねむられず思おもひつかれてとろ／＼とすれば夢ゆめにも見みゆる其人そのひとの面おもか
 影げ優やさしき手てに背そむを撫なでつゝ何なにを思おもひ給たまふぞとさしのぞかれ君きみ様さまゆゑと口くち元もとまで現うつの
 折をりの心こころならひにいひも出いでずしてうつむけば隠かくし給たまふは隔へだてがまし大方おほかたは見みて知しりぬ誰た
 れゆゑの恋こひぞうら山やましと憎にくみや知らず顔がほのかこち事余ごとよの人ひと恋こふるほどならば思おもひに身みの瘦や
 せもせじ御覽ごらんぜよやとさし出だす手てを軽かろく押おさへてにこやかにさらば誰たれをと問とはるゝに答こたへん
 とすれば暁あかつきかぬくらとすれば暁あかつきかぬくらとすれば覺さむる外ほかなき思おもひ寐ねの夢鳥ゆめとりがねつらきはきぬ／＼の空そらのみ
 かは惜をしかりし名残なごりに心地常こゝちつねならず今朝けさは何なんとせしぞ顔かほ色いろわろしと尋たづぬる母ははその事ことさ

らに知るべきならねど面赤むも心苦し昼は手ずさびの針仕事にみだれその乱る心
 縫ひとぐめて今は何事も思はじ思ひてなるべき恋かあらぬか云ひ出して爪はじきされな
 ん恥かしさには再び合す顔もあらし妹と思せばこそ隔てもなく愛し給ふなれ終のよるべと
 定めんにいかなる人をとか望み給ふらんそは又道理なり君様が妻と呼ばれん人姿は天が
 した美を尽して糸竹文芸備はりたるをこそならべて見たしと我すら思ふに御自身は尚
 なるべし及ぶまじきこと打出して年頃の中うとくもならば何とせん夫こそは悲しかるべ
 きを思ふまじく他し心なく兄様と親しまんによも憎みはし給はじよそながらも優しき
 お詞きくばかりがせめてもぞといさぎよく断念めながら聞かず顔の涙頬につたひて思案の
 より糸あとに戻どりぬさりとは其のおやさしきが恨みぞかし一向につらからばさても
 やまんを忘れぬは我身の罪か人の咎か思へば憎きは君様なりお声聞くもいや御姿見
 るもいや見れば聞けば増さる思ひによしなき胸をもこがすなる勿体なけれど何事まれ
 お腹立ちて足踏ふつになさらずは我れも更らに参るまじ願ふもつらけれど火水ほど中わ
 ろくならばなかく心に心安かるべしよし今日よりはお目にもかゝらじものもいはじお
 気に障らばそれが本望ぞとて膝につきつめし曲尺ゆるめると共に隣の声を其の人と聞
 けば決心ゆらくとして今までは何を思ひつる身ぞ逢ひたしの心一途になりぬさりなが

ら心は心の外こころの外に友もなくともて良之助りやうのすけが目めに映うつるもの何なんの色いろもあらず愛あいらしと思おもふ外ほか一点てんの
 にこりなれば我わが恋こふ人世ひとよにありとも知しらず知しらねば憂うきを分わかちもせず面おも白しろきこと面おも
 白しろげなる男をとこ心の淡たん泊ぼくなるにさしむかひては何なに事ごとのいはるべき後のち世よつれなく我わ
 身がみうらめしく春はるはいづこそ花はなとも云いはで垣かきね根ねの若わか草くさおもひにもえぬ

(下)

千代ちいちやん今日けふは少すこし快よい方ほうかへと二枚まい折をりの屏風べうぶ押おし明あけて枕まくらもとへ坐する良之助りやうのすけに
 乱みだせし姿すがた恥づかしく起おきかへらんとつく手てもいたく瘦やせたり。寝ねて居ゐなくてははいけないな
 んの病びやう中ちゆうに失しつ礼れいも何なにもあつたものぢやアないそれとも少すこし起おきて見みる気きなら僕ぼくに寄よ
 りかゝつて居ゐるがいと抱いだき起おこせば居ゐ直なほつて。良りやうさん学がく校かうが御ご試し験けん中ちゆうだと申まをすではござ
 いませんか。ア、左様さやう。それに妾わたしの処ところへばつかし来て居ゐらしやつてよろしいんですか。そ
 んな事ことまで気きにするには及およばない病びやう気きの為ためにわるいから。だつて何どうもすみませんもの。
 すむのすまないのとそんなこと気きにするより一日いちにちも早はやく癒よくなつて呉くれるがいと。御ご親しん
 切つに有あり難がたうございますですが今こんど度は所しよ詮せん癒なほるまいと思おもひます。又また馬ば鹿かなことを云いふ

よそんな弱い気だから病気がいつまでも癒りやアしない君が心細ひ事を云つて見た
まへ御父さんやお母さんがどんなに心配するか知れませんが孝行な君にも似合はない。
でも癒くなる筈がありませんものと果敢なげに云ひて打ちまもる睫に涙は溢れたり馬鹿な
事をと口には云へどむづかしかるべしとは十指のさす処あはれや一日ばかりの程に痩せも
やせたり片鬢あいらしかりし頬の肉にたく落ちて白きおもてはいと透き通る程に散
りかかる幾筋の黒髪緑は元の緑ながら油けもなきいたくしきよ我ならぬ人見るとて
も誰かは腸断えざらん限りなき心のみだれ忍艸小紋のなへたる衣きて薄くれなるの
しごき帯前に結びたる姿今幾日見らるべきものぞ年頃日頃片時はなる間なく睦み合
ひし中になど底の心知れざりけん少さき胸に今日までの物思ひはそも幾何ぞ昨日の夕
暮お福が涙ながら語るを聞けば熱つよき時はたえず我名を呼びたりとか病の元はお前
様と云はるゝも道理なり知らざりし我恨めしくもらさぬ君も恨めしく今朝見舞ひしとき
痩せてゆるびし指輪ぬき取りてこれ形見とも見給はゞ嬉しとて心細げに打ち笑みたる
其心今少し早く知らば斯くまでには衰へさせじをと我罪恐ろしく打まもれば良
さん今朝の指輪はめて下さいましたかと云ふ声の細さよ答へは胸にせまりて口へのぼらず
無言にさし出す左の手を引き寄せてじつとばかり眺めしが妾と思つて下さいと云ひもあ

へずほろくとこぼす涙其まゝ枕に俯伏しぬ。千代ちゃんひどく不快でもなつたのかい福
 や薬を飲まして呉れないか何うした大変顔色がわるくなつて来たおぼさん鳥渡と良
 やうのすけこそおど
 之助が声に驚かされて次の間に祈念をこらせし母も水初穂取りに流し元へ立ちしお福も
 あはたしくまくらもと
 狼狽敷枕元にあつまればお千代閉ぢたる目を開らき。良さんは。良さんはお前の枕
 くらもと
 元みぎほうにそら右の方においでなさるよ。阿母さん良さんにお歸へりを願つて下さい。何故
 ですか僕が居ては不都合ですか居てもわるひことはあるまい。福やお前から良さんにお
 歸へりを願つておくれ。貴嬢は何をおつしやいます今まで彼れ程お待遊ばしたのに又そ
 んなことをエお心持がおわるひのならお薬をめしあがれ阿母さまですか阿母さまはう
 しろに。こゝに居るよお千代や阿母さんだよいゝかへ解つたかへお父さんもお呼申した
 よサアしつかりして薬を一口おあがりエ胸がくるしいアゝさうだらう此マア汗を福やい
 そいでお医者様へお父さんそこに立つて入らつしやらないで何うかしてやつて下さい
 りやうちよつとそ
 良さん鳥渡其の手拭を何だとエ良さんに失礼だがお歸へり遊ばしていたゞきたいと
 あゝさう申すよ良さんおきゝの通ですからとあはれや母は身も狂するばかり娘は一語一語
 呼吸せまりて見る顔色青み行くは露の玉の緒今宵はよもと思ふに良之助起つべき
 心はさらにもなければ臨終に迄も心づかひさせんことこのいとをしくて屏風の外に二足ばか

糸いとより細ほそき声こゑに良やうさんと呼よび止とめられて何なにぞと振ふり返かへれば。
 軒端のきばの桜さくらほろくくとこぼれて夕ゆふやみの空鐘そかねの音ねかなし

お詫わびは明みやう日にち。風かぜもな

青空文庫情報

底本：「新日本古典文学大系 明治編 24 樋口一葉集」岩波書店

2001（平成13）年10月15日第1刷発行

初出：「武蔵野 第一編」

1892（明治25）年3月23日

※括弧付きのルビは校注者が加えたものです。

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2007年8月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

闇桜

樋口一葉

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>